

(62)0506 人間と時間

締め切り 021506 提出 020706

日本人の時間は早く進む

普段、時間はすべての人に一様に、一定の速さで進むものと考えられていると思います。しかし、ちょっと突っ込んで考えると、絶対的な時は一様に進んでも、個人にとっての時間は一様には進まず、緩急のあることを実感します。また、状況によっては進む速度も異なるもののようです。日本人の時間は早く進むのではないのでしょうか。最近では昔ほどではなくなりましたが、汽車・電車はきちんと時間通りに狂いなく到着・出発するものでした。

2005年にJR宝塚線で脱線事故があり、多くの方が亡くなりました。JR西日本は、大いに責められ謝罪もしたのですが、根本的には過密ダイヤを組むようにしたのは一般の日本人の時間感覚の余裕のなさで、その意味ではJR

も犠牲者と考えられます。台風・地震などの天変地異でも、電車・飛行機の運行スケジュールが変わると係員に対応が悪いと食ってかかる人をよく見ます。こうなると、争点が遅れたことから対応の悪さに移っていきま

す。

これが、外国、とくに南米に行くとき国際学会の開始時間が、われわれの感覚でいうといい加減だったりして、時間のゆっくり流れることを感じます。南太平洋のリゾートへ行くと、ゆっくりと流れる時間とともに血圧の下がる自分を見つけてちょっとした間は自省もするのですけど。。。確か、JR宝塚線の事故後の新聞の解説記事に、日本人がせっかちになったのは明治以後のことであって、文明開化から海外進出までの日本全体の機運の中で物資・兵隊を滞りなく輸送する間にこうなってしまったと書いてありました。少しはゆとりのある生活をと、小・中学生の学校での週間スケジュールを緩やかなものにする試みを始

めたと思ったら、はっきりした結果が出たの  
か出ないかのうちに、やっぱり学力が低下す  
るのでゆとり学習はやめたりするゆとりのな  
さです。

わたしは、ときどき日本人の医療や宗教性  
について重層的であると考えたり書いたりす  
るのですが、時間意識に対しても重層構造が  
あるように考えられます。根本的には、日本  
は地理的に海によって隔絶されており、異文  
化が流入しにくかったのですが、流入のエネ  
ルギーが鬱滞することによって蓄積し、地理  
的・人文的バリアを一気に乗り越え、あるい  
は押し流すことによって亀裂を持った重層構  
造ができるのではないかと推察しています。  
そうすると、地理的にはっきりしたバリアの  
ない地域・国では間断なく流入が起こったた  
めそのような重層構造はできていないのか、  
これから先のように交通・通信が自由に行き  
交うようになり地文的バリアが低くなる状況  
では、日本でも重層構造は起きないのかが興

味ある点です。

### いい加減の効用

世界的に見れば森林に恵まれて水も豊富で、四季の移ろいを肌感ずることができるわれわれ日本人は輪廻転生の生命観で育った農耕民族であり、時間は円環的なのです。日本的知恵は、「冬来たりなば春遠からじ」「時節を待つ」ことに代表され、善くも悪くも「水に流す」の余裕を持つことができました。その時々で、「足るを知る」もできました。

一方、アメリカが主導するグローバリズムの時間意識は、砂漠に生まれたユダヤ教・キリスト教の終末生命観に影響され直線的であるといわれます。狩猟民族的知恵であり、「最後の審判に間に合わない」「世紀末に向かう」と前に向かって一直線といわれます

<sup>1)</sup>。先に、南米ではいい加減なと書いたのですが、いい加減も日本的で、本当に素晴らしい表現です。いい加減にことを済ますのはよ

くないのですが、いい湯加減のように使う場合には、だれにも分かって、ホントのところはだれにも分からない婉曲でよい表現と考えます。

### 日本人の時間感覚

日本人の時間感覚は、深層は自然風土に根ざしたゆっくりと待つことができるものと、表層には明治以降のせかせかと急ぐものとの重層構造とすれば、それなりに理解可能ですが、そんなに簡単明瞭ではないのです。金子は、日本人の時間意識について「七転び八起き」に示される周期性と、「覆水盆に帰らず」「光陰矢のごとし」によって一直線性を指摘しています<sup>2)</sup>。これらは、もともと中国由来の格言ですが、現在では日本人の心情としてしっかり受け入れられていると考えられます。人の心の問題は極めて微妙であり、本来の心の性質と状況に影響されて簡単に変化する性質のバランスで動的平衡が保たれてい

るようです。

## 人生のなかで費やす時間

決められた人生の中で、時間をどう費やすか、どう利用するかは、極めて大切なことと考えられます。この時間経験を歴史的に考察した論文があります<sup>3)</sup>。ギリシャ・ローマ時代には、人間的価値・社会的価値は余暇、つまり自由な時間を持てるかどうかで決まっていた。自由・不自由は、他人のために労働するかしないかということによって決まっていた。社会制度として、奴隷が必要だった理由ともいえます、あるいは奴隷が確保できたからそうなった結果かも。。近代以前では、多忙さはマイナスの価値だけだったのです。ところがフランス革命以後は、忙しいブルジョアが法律家・知識人になり、多忙さはプラスの価値を持つことになりました。余暇価値文明が崩壊したといえます。現代でも、忙しい忙しいとこういうことに価値を見つけてい

る人がいる一方で、呑気に、のんびりと過ごすことに価値を見つけている人もいます。現代は、あらゆる面において価値の多様化の時代といえます。

### 間を科学する

ところで日本文化では、「間（ま）」を重視するのが特徴といわれたりします。間は空間にも、時間にも使われます。中国古来の思想である宇宙の概念の日本版で、単位としてはずっと小さく、日本人は不可分統合体と考えてきたようです。私は、それに倣って、医療と量と質は不可分統合体と考えています<sup>4</sup>）。

日本画には特有な、多くの欧米人には無駄な余白とも考えられる空間があつたりします。特別な感性を持ったわずかな欧米人には、極めて日本的とみなしてこの空間の存在にしびれてしまう人がいます。

時間的な間を科学的に理解しようとする研究があります<sup>5</sup>）。これまで、間は定性的に論

じるばかりで定量的な追及が行われてこなかったもので、間の一般的法則性を数量的に追及できるかを命題に検討が行われました。どうして間が日本文化において重要になったか、その背景を探ってみると、日本語のリズムにおける特徴が指摘されるそうです。つまり強弱のアクセントがなく、各音節を発音するのに要する時間がほぼ等しいといわれています。日本伝統音楽にも間が重視され、音の長短より間の長短が問題になります。また会話・スピーチにおける間の取り方が大切とされることは、落語家の話し方でしばしば指摘されるところです。

一方では、伝統芸能における間とは、機械的に測れるものでも数量に換算できるものでもない、とか、理屈に合わない、割り切れなからこそ間であるといういい方をする人もいます。

本筋に戻って、西洋音楽・日本伝統音楽・スピーチなどにおいてちょうど良いと感じる



間は、0.35 秒・0.7 秒・1.4 秒と1.4 秒の約数であり、これは呼吸の半分の長さとも一致するといわれます。音楽を聴くときの呼吸の平均的な長さは、約3 秒です。演奏者における間と呼吸が同調する傾向がある一方で、演奏を聴く聴取者の呼吸が演奏者に同調する傾向のあることも指摘されます。つまり、各個人が良いと感じる間の長さは、演奏者と聴衆者の呼吸のサイクルに関係する時間的が流さを中心とする基準値に「揺らぎ」が加わって、芸術的、あるいは絶妙な間の要因になると考えられるということです。

文献：

- 1 ) 快快生：時間意識と企業経営。経済気象台，朝日新聞，夕刊200年7月31日
- 2 ) 金子務：科学と歴史における時の矢の意義。時間と時，広中平祐ら編，p116，学会出版センター，東京，2002年
- 3 ) 今村仁司：労働と時間。時間と時，広中平祐ら編，p149，学会出版センター，東京，

2002 年

4 ) 阿 岸 鉄 三 : 医 療 の 量 と 質 は 不 可 分 。 ク リ  
ニ カ ル エ ン ジ ニ ア リ ン グ 15 ( 4 ) 「 炉 辺 医  
話 」 連 載 37 回 、 : 400 - 402 , 2004

5 ) 中 村 敏 枝 : 間 の 感 性 。 時 間 と 時 , 広 中 平  
祐 ら 編 , p302 , 学 会 出 版 セ ン タ ー , 東 京 ,  
2002 年

挿 絵 : 3 月 末 の ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド 。 さ す が ニ  
ュ ー ジ ー ラ ン ド 、 広 い ヒ ツ ジ の 牧 場 が ア チ コ  
チ で 見 ら れ ま し た 。 多 く の シ カ を 飼 っ て い る  
牧 場 も あ り ま し た 。 ワ イ ン 、 乳 酪 製 品 が 美 味  
し い の は 期 待 通 り で し た が 、 魚 介 類 が 新 鮮 で  
美 味 し か っ た の は 、 思 い が け ず の 収 穫 で し た 。